

自然休養林情報

おいで下さい白谷雲水峽へ

県道白谷雲水峽宮之浦線は、条件付き(夜間と雨天時は通行止め)の通行規制が依然続いていますが、晴天時には通行可能で、白谷雲水峽も利用できます。

白谷雲水峽は奇岩や滝、緑映える苔が素晴らしく、森林浴やハイキングに最適で、ヤクスギランドとはひと味違う楽しみ方が出来るところです。

今年の夏は、雨が少なく白谷川の水量も少なかつたものの、原生林歩道沿いの水谷筋に少なかったものの、眺望は素晴らしく、光線に含んだゴケやスギの様は幻想の世界へ引き込まれようです。濃い赤色の可憐な花を付けてみて下さい。



この会議は、世界遺産の適正な保全管理を推進し、関係機関の連絡調整を行う目的で年二回程度実施しています。まず、今年一二月の第二回世界遺産委員会京都会議開催に伴い実施されるパネル展について、各機関へパネル出展の協力依頼があり、屋久島の世界自然遺産を一般の方にも理解しやすいように展示するとともに、各機関の紹介を

含め三〇点ぐらい展示するこゝと等が決まりました。また、各機関から九年度事業実績や十年度計画が説明され、林野庁からは今年度実施予定である、縄文スギ樹勢回復措置(土壌改良・排水対策等)



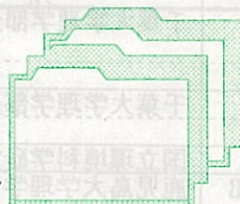
第二十二回 世界遺産委員会京都会議開催に伴いパネルを展示 第八回屋久島世界遺産地域連絡協議会開催

十月二日、本年度一回目の連絡会議が鹿児島市内で開催され、世界遺産委員会京都会議へのパネル出展や、各機関の九年度事業報告と十年度の事業計画、今年度林野庁が実施予定の縄文スギ樹勢回復措置等について討議されました。

の主旨説明等が行われました。この他、夏休み期間の山岳部への入込み者の状況報告に続き、縄文スギ登山道への負荷の軽減や今後の登山道整備のあり方等について、関係機関から意見が述べられ、今後これらの問題解決のため、前向きに取り組むことが確認されました。

西部地域が重要な研究フィールドとなっています。

今年度も屋久島森林生態系保護地域において、植物をはじめヤクザル・ヤクシカ・きのこ・気象など様々な調査・研究が行われていますが、上半期の状況がまとまりまし



たので裏面に掲載します。この結果から、その大半が西部地域(世界自然遺産登録地域)で行われており、この地域が多くの研究者の重要な研究フィールドとなっていることが伺えます。保全センターとしては、今後もこのような状況を把握し

屋久島の植物



ハリギリ (うこぎ科)

暖帯・温帯の全国に分布する落葉高木で、屋久島では標高五〇〇m以上の林道沿いに多く見られ、白谷雲水峽の飛流歩道の東屋から黄緑色に咲いた花を見ることが出来る。新しい枝には刺があり、葉は枝先に集まって互生し、五く九片に切れ込み、縁には鋭い細きよ歯があります。

モッチヨム岳登山道の森林パトロール実施

九月八日、著名スギの確認登山道周辺植生の状況把握等のため、千尋の滝駐車場からモッチヨム岳までの森林パトロールを実施しました。

この地域は世界遺産地域内で生態系維持が叫ばれていますが、登山者の足跡は頻繁に見られるものの、植生が極端に痛んだところはなく、良好に保全されているようです。また、登山道沿いに多少の



風倒木等があったため下山時に風倒木の除去やピンクテープ(目印)の表示等、簡易な登山道整備も行いました。なお、このコースは、急坂や尾根付近の狭い箇所を歩くため、十分な注意と余裕ある日程を組む必要があります。

ヤクタネゴヨウ着果見られず!

先月実施された、森林総合研究所のヤクタネゴヨウの調査に保全センター職員も同行し実態を調査しました。調査は、高平岳と西部林道沿いの二箇所でしたが、高平岳では種子の着果が殆ど見られず、稚樹の発生も見られませんでした。

そのうえ、台風の被害も発生しており、これからの状況が心配されます。この調査は今年度より三年間の予定で実施されます。また、裏面にヤクタネゴヨウの解説を記載します。



「危急種ヤクタネゴヨウ」

ヤクタネゴヨウは、台湾から中国本土に生育するタカネゴヨウの近種で、高さ25m、幹の直径約1mにもなる常緑の高木ですが、進化が進んでいない古い時代からの植物であるため、新しい他の樹種に比べて生存への競争力が弱い樹種です。そのため、化石が京都や横浜から見つかるなど、古くは日本列島の関東以西に広く分布していましたが、現在の天然林分布は屋久島・種子島のみで生育するようになったとされています。

ヤクタネゴヨウは、明治以降丸木船の材料として利用され始め、大正時代には約500隻分の伐採が種子島で行われたようです。戦後は建築用材として伐採されたことに加えてマツクイムシと思われる被害や、台風による枝折れ・転倒等も発生しており、個体数が急速に減少しています。

このため、「我が国における保護上重要な植物種の現状」(レッドデータブック)の「危急種」として指定されています。

現在、屋久島での個体は、国割岳から瀬切川にかけての世界自然遺産地域内(4林班外)、平内集落後方の芋塚岳南西斜面(48林班)、麦生集落後方の高平岳頂上付近(66林班)の3つの天然林分に生育しており、その推定個体数は約1000~1500本とされています。しかし集団遺伝学によれば、種の集団が遺伝的変異を数世代を通して維持するのに必要な集団の大きさは数百個体、すでに近交が進んでいる希少種では数千個体が必要といわれており、現在のヤクタネゴヨウの生育本数は種を持続させる最小限であると考えられています。

そのうえ、更新状況が不良で現在では稚樹の発生はほとんど見られません。

これは、ヤクタネゴヨウは球果に樹脂が多く種子が球果にこもりがちで、光発芽植物であるため林冠が閉鎖した林分では更新が難しい元来の性質のほか、単木的に分散して生育していること、母樹の衰退により着花量が衰退している等により、花粉の密度が低く受粉が難しいためであり、受粉したのも近親交配・自家交配が多く、胚致死・無胚種子・不稔種子が著しく増加していることによります。

現在の状況では、ヤクタネゴヨウの絶滅は目に見えており、ヤクタネゴヨウの種の永久的な保全のために、森林総合研究所や林木育種センター九州育種場、各大学等では様々な調査研究が実施されています。

資料：熊本営林局ホームページ

屋久島森林生態系保護地域などにおける学術調査の入林状況

(平成10年2月1日~平成10年9月30日)

植物関係

目的	代表者	所属	地域(林班名等)	年度	備考
常緑広葉樹のシュートフェロジ-調査及び芽・樹型の調査	大沢雅彦	千葉大学理学部生態学研究室	2	9	
千葉大学理学部の生態学野外自習のため			2,204,ヤクスタ	10	
半山周辺の原生林における植生調査	朱宮丈晴	千葉大学理学部生態学研究室	2	9	
〃			2	10	
照葉樹稚樹の伸長パターンの調査	竹中明夫	国立環境科学研究所	4	10	
屋久島の天然林の純一次生産量推定に関する植生調査	相場慎一郎	鹿児島大学理学部	2,204,(78,81)	10	
植生調査(原生自然環境保全地域調査の継続調査)			16,24	10	
生態学の研究	野間直彦	滋賀県立大学	1~4	10	
植物群集と構造と動態の研究			2	10	DIWPA
ヤクタネゴヨウの球果生産量、マツノサイセンチユによる枯死の確認、個体群動態	金谷整一	九州大学大学院農学研究科	47,48,66	10	

動物関係

目的	代表者	所属	地域(林班名等)	年度	備考
ニホンザル分布調査地域の植生調査	好廣真一	龍谷大学経営学部	2~3,9~12	9	
ヤクシカ,ヤクザル,コウモリ類の生態調査	揚妻直樹	秋田経済法科大学経済学部	西部林道,永田歩道一円	10	
ヤクシカの生態調査			〃,一湊林道一円	10	DIWPA
野生ニホンザルの社会生態学的研究	半谷吾郎	京都大学理学研究科	1~4	10	
ヤクシマザルの分布調査			6~10		
西部林道及び安房林道周辺のヤクシマザルの餌付き方の調査,西部林道周辺のヤクシマザル及びヤクシカの頭数調査	杉浦秀樹	京都大学霊長類研究所	1~4	10	
ヤクシカの糞及び食物植物標本の収集	永井真紀子	日本大学森林資源科学科	6~10	10	
			永田歩道周辺	10	
ニホンザルによる種子散布(フン虫による二次散布)	丸橋珠樹	武蔵大学,人文学部	1~4	10	DIWPA

その他

目的	代表者	所属	地域(林班名等)	年度	備考
酸性雨調査	古賀実	熊本県立大学	3,230	9	
きのこの観察	村上康明	大分きのこ研究指導センター	ヤクスタ,白谷雲水峡周辺	10	DIWPA

※ 屋久島森林生態系保護地域は平成四年三月に原生的な天然林を保存することにより、自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、学術研究等に資すること目的として設定されました。
 なお、屋久島森林生態系保護地域内で調査・研究を実施する場合は国有林野入林許可及び保護林調査許可が必要です。